

第1回ジャングルぐるぐる MAX 滑落事故の最終報告

令和3年3月15日

1.事故の概要と時系列

令和2年11月28日にカイ立場を過ぎてからの幕岩の岩場で参加選手単独の滑落事故が発生しました。(東経139.15.54/北緯35.55.45 世界測地系)。

山域の天候：晴れ/14.2°C/風速5m

- 13時56分：滑落の瞬間を目撃した登山者により警察に通報。
- 14時07分：西入間警察署より事故発生の連絡が大会本部に入電。
- 14時12分：西入間広域消防組合に救助要請。
- 14時19分：西入間広域消防組合救急車出動。
- 14時37分：林道笹郷線終点の一本杉に救助本部を設営。
- 14時50分：救助隊員、医師、看護師が一本杉より入山。
- 15時26分：救助地点までのルートを確認しながら要救助者に接触し処置。
- 15時57分：救助地点から一本杉までタンカを使用して搬送開始。
- 17時07分：救助隊が一本杉に到着。救急車へ収容。
- 17時11分：救急車現場出発。
- 17時52分：病院に到着。

2.事故の原因

事故直後の現場には滑った靴跡が発見されていた。転落するまでの経緯を負傷選手にお聴きしたところ、岩場へ進入直後に視界に入った常設のロープを掴み損ねたことで、体勢を崩し足が谷側へ流れて落ちたとのことでした。

3.中止までの経過

円滑かつ迅速な救助を最優先するとともに、レース中断による参加選手の低体温症などを予見して中止を決定しました。20時までに参加選手の計測リストバンドを回収しエントリー情報と照合。未返却選手へは、直接電話して、生存確認を実施。全参加選手の生存確認を完了後、消防署に報告し終了しました。

4.事故後の現場検証

事故現場は約10mの岩稜区間になっています。滑落地点から谷底までは10m~12m程あります。トレースラインには常設のロープがあり進行方向の目印となっています。谷底から多くの樹木が高く伸びた一帯で尾根を進む際に谷の深さを認識できる地点は限られています。谷底の救助地点は土と岩が落ち葉に埋もれた場所でした。

5.今後の安全対策について

安全対策について有志の意見を取り入れ課題を検討しながら再発防止に努めます。今後も参加者と大会関係者が安心して参加できる大会を目指し、下記の課題も含めて運営方法を

再構築します。

(1)危険回避のために設定を見直します

- ①危険地帯では歩行区間を設けます。
- ②レギュレーション全般（必携品装備と参加資格）を見直します。
- ③コースを見直しルートを変更します。

(2)注意喚起を徹底します

- ①告知板をわかりやすく目立つように工夫します。
- ②コースの情報更新を頻繁にします。
- ③ブリーフィングを明瞭にします。
- ④監視誘導に関する業務と人員配置を再考します。

(3)緊急事態での対応を再構築します

- ①緊急中止時の参加者への下山方法（エスケープルート）を事前に周知します。
- ②緊急中止時の参加者とボランティアへのケアを充実させます。
- ③緊急中止の対応を事前に告知します。

(4)救助スキルを向上させます

- ①消防署と連携しトレイルラン向けの救助訓練を実施します。
- ②救命救助のために関係各所と連携を一層強化します。

6.最後に

今回の滑落事故で負傷された選手のご快復を心よりお祈り申し上げますと共にご家族の方には大変辛い思いをさせてしまったことを深くお詫び申し上げます。それと参加選手からは楽しみを奪ってしまう結果となった事を衷心よりお詫び申し上げます。そしてボランティアクルー及び大会を支えてくださったご協賛企業各社の皆様には柔軟なご対応いただき厚く御礼申し上げます。今後は事故を防止する安全策と事故を予測した細かい対応策を講じていくことが私共の使命であり責務であると考えています。

大会実行委員長 東條一矢